

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店 (従業員)	単価の動き	・地域のプレミアム付商品券が功を奏している。例年と比べて1人当たりの購入上限額が増額したことで、高額の単価の商品の提案がしやすく、顕著に数字として現れている。
	◎	その他専門店 〔書籍〕（副店 長）	販売量の動き	・8月に移転オープンし、想定以上の売上となっている。
	○	百貨店（経理担 当）	販売量の動き	・衣料品を除く部門においては、前年の売上を上回っている。時計、宝飾関連も好調で、飲食を含む食料品も好調である。反対に婦人服を中心に衣料品全般は売上において依然として苦戦を強いられている。
	○	百貨店（経営企 画担当）	単価の動き	・3月から6月は前年比98.5%と苦戦したが、7月以降は前年を上回る水準で推移している。具体的に、7月の売上は前年比100.8%、8月24日時点は前年比106.0%となっている。外商顧客を始めとした富裕層による高額品の需要が回復基調にあり、売上全体の底上げに寄与している。
	○	スーパー（経理 担当）	来客数の動き	・来客数が前年比を100.3%で推移している。8月はお盆の行事があったことに加え、当県ではほぼ雨が降らなかったため、一時的な現象の可能性はある。
	○	家電量販店（従 業員）	販売量の動き	・エアコンの工事部材等の入手困難な状況が改善した。
	○	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・ほぼ販売目標どおりに受注できている。
	○	乗用車販売店 (役員)	来客数の動き	・ミニバンの購入を中心に、来客数が多い。他社との競合も多くなっている。
	○	その他小売の動 向を把握できる 者〔ショッピング センター〕 (統括者)	販売量の動き	・8月は3か月前と比べ国内客の動きが見られた。猛暑に功罪はあるが、家電の好調、好天継続が結果として良かった。
	○	旅行代理店（職 員）	販売量の動き	・夏休みのバスツアーや国内企画商品が好調であった。
	○	タクシー（統括 者）	単価の動き	・客単価に直結する運賃改定が実施され、その効果が継続している。
	○	その他サービスの 動向を把握でき る者〔介護サ ービス〕（管 理担当）	それ以外	・6月からの診療報酬改定や介護報酬臨時改定により、社員の賃上げ財源が一定程度確保できたことで、採用環境にもプラス要素となっている。また、報酬改定のなかで新たな加算取得に伴い増収もあり、期首との比較では若干の経営環境好転がみられる。
	○	住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・市内の中心部の分譲価格が急激に上昇しており、周辺の開発が進んでいる。賃貸や分譲マンションの着工、家屋の建て替えも行われており景気が良くなっている。
	□	商店街（代表 者）	来客数の動き	・天候により人流が変わる状況は、前年と同様であるため、来客数の動きは変わらない。
	□	商店街（代表 者）	お客様の様子	・猛暑が継続しているため、客の来店が厳しくなっている。
	□	商店街（代表 者）	来客数の動き	・食品や様々な物が値上がりをしている状況で、客の消費マインドが冷えている。やや悪い状態が数か月続いている。
	□	一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	販売量の動き	・株価は高騰し続けているが、小売店での景気は厳しい。猛暑の影響により外出も控え気味であり、物価の上昇も販売量にかなり響いている。
	□	百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・食品の値上げが大きな原因である。
	□	百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・販売量に大きな変化はみられないが、現状は天候等に左右される不安定さを含みながら推移している。
	□	百貨店（リー ダー）	お客様の様子	・現在セール商材が多いが、安さだけでは客の購入にはつながらない。客はしっかりと見極めた上で判断し、必要な物だけを購入している。

☐	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に変化はなく、厳しい状況は続いている。特に通常日での減少が見受けられる。消費者の生活防衛意識が高止まりし、特売日などに集中して来店しているため、来店頻度が落ちている。
☐	スーパー（店長）	単価の動き	・単価の上昇傾向は変わらず、可処分所得は減少が続いており、消費意欲は低い状態である。行政の支援が多少あるが、一時的であり景気が好転する要素が見当たらない。
☐	スーパー（店員）	お客様の様子	・主食の米価は下がってきているが、食品や消耗品がおおむね5～7%値上がりしている現状では景気の上がりようがない。
☐	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・お中元商戦は、価格の下落を予測していたとおりの結果であった。日常使いの商品は売行きが良い。まとめ買いのため、特に特売日に来客数が多く集中し、特売日とその他の日の来客数のギャップが激しい。
☐	スーパー（従業員）	お客様の様子	・当社の売上や来客数の推移は上昇傾向にあるが、全体的に景気が良くなってきているとは実感できない。
☐	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・仕事やイベントでの利用に変化はないが、家族連れの行楽は減少しており、特に週末の来客数が減少している。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・20年ぶりのキャンペーン企画等への客の反応も良好である。
☐	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・来客数の動きは曜日や気温によって変わることがあるが、1週間の平均でみると前年と比べて変わらない。天候にかかわらず、夏物商材の売行きがその日によって違うため、一概に景気が良くなっているとはいえない。
☐	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ここ2～3か月の景気は、悪い状態が続いている。
☐	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比べて、8月は災害や暑さ、値上げ、世界情勢など余りにも様々なことが起こり、買物をするような気分にはなれない状況である。生活必需品を除いてぜいたく品に関しては、厳しい月であった。
☐	家電量販店（店長）	来客数の動き	・売上は前年並みではあるが、来客数は前年を下回った状態が続いている。特にお盆期間の落ち込みが大きく、令和8年熊本地震の影響もあったとみられる。
☐	家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前年より増えているが、客単価の低下で売上増加になっていない状況である。
☐	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月の店舗での販売企画は、売上に効果が出ている。しかし、仕入れ等の値上がり分を補うには厳しい状況である。
☐	その他専門店 【コーヒー豆】 （経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると、夏場の売上の動きは変わらない。販売量、来客数、客単価もほぼ横ばいである。
☐	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・令和8年熊本地震により、当初はキャンセルや予約控えがあったが、最近は落ち着いてきている。
☐	旅行代理店（統括者）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている傾向は3か月前と変わらないが、総販売量も平行に推移しているため、景気の動向は同じく変化していないと捉えている。
☐	タクシー運転手	お客様の様子	・昼間の猛暑の影響により、短い距離でもタクシー利用が多い。
☐	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・引き合いや提案の機会は一定数あり、営業活動量に大きな落ち込みはみられない。一方で、次年度に向けた見積依頼など中長期の検討案件も多く、足元の受注拡大にはつながりにくい状況が続いている。販売量としては3か月前と比べて大きな変化はなく、横ばいとみている。
☐	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売が伸び悩んでいる。
☐	通信会社（営業担当）	それ以外	・物価上昇に給与が追いついていない。
☐	通信会社（役員）	それ以外	・地域で宿泊業、建設業等の一部の業種を除き、景気が改善している状況が見られない。
☐	テーマパーク職員	来客数の動き	・インバウンドが継続しており、依然として来館者数が高水準である。

□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ 2～3 か月前から比べると変わっていない。暑い時期のため、美容業界では夏枯れで現状は変わらず、景気回復の状態ではない。秋口になるまでこの状態が続く。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・ 暑い日が続いているが来客数に変化はない。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・ 建築材料や製品の単価が高止まりしているが、仕事の対価である人件費は上がってこない。生活必需品の価格上昇も続いているため、景気の良さは感じない。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 当商店街では、現在再開発の建物などで一部は完成したが、河川上にあるため工事が分割され客に不便な状態である。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 物価高や猛暑により外出を控える人が多く、アーケード設備のない当商店街では午後から人通りが激減している。最近では災害が続いていて、生活必需品以外の消費を極力控えている。
▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	来客数の動き	・ 客単価は値上げの影響により上昇しているが、暑さの影響から来客数が前年比では減少している。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・ 令和8年熊本地震により、当店の被害は少なかったものの、その影響が残っているなかで花屋を経営していくには、お盆の時期ではあったとはいえ厳しい状況であった。
▲	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・ インバウンドが多いが、複数での来店でも買上は1人だけなど売上につながりにくい状況である。国内客については、残暑が厳しいため、秋冬商材への需要がまだみられない。
▲	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・ インバウンドの売上は3か月前と比較しても同水準の販売量で推移しているが、令和8年熊本地震以降、国内顧客の動きが若干鈍っており、結論を出すには経過観察は必要だが、国内景気が少し鈍りそうな雰囲気がある。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・ 令和8年熊本地震があり、大きな被害を受けた。特に県南ではいまだ生活インフラも戻らず、通常の生活ができない人が多数いる。被害の大小にかかわらず、県全体でつながっているところが多く、現段階では生活復興より生活再建の途上であり、3か月前と比較すると単純に比較はできないが悪くなっている。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・ 特売企画を前面に出した日以外は、なかなか来客数が前年比を超えない。消費者の財布のひもがますます固くなっている。
▲	コンビニ（経営者）	単価の動き	・ 物価高のため、より安い物を購入するために買い回りをしている。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・ 物価高で財布のひもは固く、猛暑で来客数が減っている。
▲	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・ 今月の第4週以降は暑さが戻ったため、顧客の興味が秋物定価販売に向かない。
▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・ 5月頃までは全体の売上が順調であったが、6月以降は少し下降基調になっている。映画館を抱える当館では前年のヒット映画により特需が発生していたことによる反動もあるが、2025年末頃から継続的にヒットしていたシールの恩恵が薄まっている点が挙げられる。今は他の雑貨がヒットしているものの、映画やシールほどではなく、モール全体で前年比を基準に考えると厳しい推移である。
▲	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・ 令和8年熊本地震の影響により、キャンセル発生から九州ふっこう応援割の開始までに外出控えがあり、客足が余り良くない。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ 今月はインバウンドを含め来客数が多い。宿泊では数か月前と比べて比較的安価になっている。市内競合による価格設定が低いこともあり、各社で宿泊客をめぐって競合している。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・ 運賃改定により単価は上がっているが、夜の売上が伸びていない。特に仕事終わりの飲み会が減っている。
▲	観光名所（職員）	単価の動き	・ 物価高騰の影響により購入意欲が伸びていない。

	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ナフサ不足から景気が若干悪くなっているところに、猛暑や令和8年熊本地震があり該当地域への国内旅行の縮小が見受けられる。
	▲	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・猛暑での来場者数は、想定どおりのダウンである。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	それ以外	・3か月前は、利益率が良い案件があり、営利が良かった。しかし、今月は猛暑のため用役費の負担が大きく利益を圧迫している。
	▲	設計事務所（代表）	お客様の様子	・物価や金利の上昇による買い控えが発生している。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・令和8年熊本地震の影響により来場者数が減少している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・お盆明けの消費能力の低下と猛暑で客足が格段に減少している。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・店の前を通る人の流れはあるが、入店や店先の商品を見ることはなく、購買意欲もみられないため、来客数が減り、売上も減っている。
	×	コンビニ（経営者）	単価の動き	・商品の値上げ等によって、一定の客離れが進んでいる。全体的に来客数の減少が発生している。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・閑散期の8月はお盆の行事があったが客の動きが少なく、売上が1番少ない月になりそうである。
	×	居酒屋（経営者）	来客数の動き	・令和8年熊本地震により、九州新幹線が全線開通していない影響がとて大きく、売上に響いている。
	×	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・令和8年熊本地震の影響により、宴会がほぼ開催されない。
企業 動向 関連 (九州)	◎	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの受注量が過去2～3か月前と比べると少しずつ増加している。材料の調達が可能になったとみられる。
	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注は増加傾向である。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・A I 半導体を大手企業が取り組まざるを得ない状況となっている。装置メーカーから2027年度の引き合いがあり、A I 半導体ではない別の装置メーカーからの基盤作成要請がある。
	○	広告代理店（役員）	取引先の様子	・新規事業や投資を行おうとする企業の声がある。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・従来は盆暮の消費拡大で8月の販売量は伸びる時期だが今年は伸びていない。消費者の節約志向と推察され、年度計画の予定額に足りない状況である。従来の原料不足で工場生産も悪く、供給不足も影響しているとみられる。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置の金属部品受託については、そこそこ受注量が増えてきている。しかし、その他の分野についてはさほど変化はない。
	□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・令和8年熊本地震の影響が多少はあるものの、計画台数分の仕事は維持している。
	□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・このところ生産量が増えていたが、若干頭打ちのような状態で横ばいになっている。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・物価高騰による値上げが様々なところに波及しており、多方面から値上げの連絡を受けている。商品の動きは悪くないが、収入がカバーできていない。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・寄託者別に増減はあるものの、物量は全体的に平均であった。猛暑が続く、消費は増えているようにみられるが思いのほか伸びていない。
	□	金融業（経営者）	それ以外	・会員数の回復傾向から一進一退に転じている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先企業の業況に変化はない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・7月の令和8年熊本地震の影響により、夏の書き入れ時を迎えていた県内の宿泊施設でも相当数のキャンセルが発生した。米価は低下が顕著であるが、その他の食料品関連では価格上昇若しくは高止まりの傾向が続いている。

	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先と業況について意見交換をしても大きな変化がみられない。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・この数か月のダイレクトメールを送付した反応は、芳しくない状況である。
	▲	農林水産業（従業者）	それ以外	・東北地方の梅雨明けに伴い、全国的に気温が上昇したため、野菜に関しては不足気味となり、家庭を圧迫している。
	▲	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・前年から最低賃金や運賃、附属品の価格上昇に対して工賃の値上げが望めず、還元されないため、工場はどこも切羽詰まっている状況である。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前から取引している荷主の取扱量は減少傾向になっている。特に輸入に関しては中東情勢の影響が続いており、港が使用できないことから代替ルートで調達しているが、割高となるため全体の量を減らしている。また、輸出に関しては徐々に回復しているが、中東情勢の混乱前とは程遠い状況である。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業は、日本銀行の利上げに対し、利益面での減少を余儀なくされている。資金面の不安から中東情勢の混迷化に関する制度融資の申込みが増えている。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・大きな変化はないが、物価高が続くなか、地震による災害や猛暑、台風、大雨等が続いており、停滞感がある。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2～3か月前から仕事量が減少傾向にあり、景気が少し悪くなっている。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上については前月比ではプラスであるが前年比ではマイナスとなっており、マイナス基調は変わらない。国内の状況は物価の上昇に賃金が追いついておらず、円安にも歯止めがかかっていない。海外の状況についても先行きがみえず流動化となっている。このような状態であることから景気は3か月前と比較するとやや悪くなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・今月は物価の上昇が顕著にあったため、買い控えが多くなった。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の調査、計画策定の委託業務を受注しているなか、当県内では当初予算や6月の補正予算の委託業務の発注時期が終盤になり、例年と比べて発注件数が減少している。また、令和8年熊本地震の影響により、他県の市町村では発注が遅くなっている業務がみられ、予算が災害対応に充当されているものと推察される。このため、入札においては、建設コンサルタント、高齢者や障がい者福祉計画策定の役務とも予定価格の5～6割の低価格で応札する業者がみられ、利益は僅かとなり対抗するのが難しい状況にある。このため、景気が悪い。
	×	食料品製造業（経営者）	それ以外	・令和8年熊本地震による人的被害はなかったが、工場の損傷があった。発生後3日目から通常営業をしているが、景気が良い悪いどころではない。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業側は採用や人員補充に慎重な姿勢がみられ、採用意欲に大きな変化はない。特に退職の補充以外の長期案件については動きが鈍く、短期、スポット案件が中心となっている。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	それ以外	・物価高もあり、景気の停滞感を持っており好景気への兆しがみられない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は4月から7月まで連続して前年より増加しており、8月も前年を上回る勢いで推移していて、企業の採用意欲は高い状況にある。一方で、就職件数等は前年と比べて7月は減少し、8月も前年を下回っており、ミスマッチが生じている状況である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・正社員の求人募集が継続的に行われている。

□	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・企業の人手不足感は依然として強く、8月以降も採用活動を継続する企業が多い。2027年卒の採用に関する相談も引き続き寄せられており、採用充足に苦戦する企業が見受けられる。売手市場の状況に大きな変化はなく、採用活動の長期化傾向が続いている。
▲	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・派遣登録者が希望する事務関係の求人数は少なく、医療や介護系の求人情合は多い状態が続いているが、稼働全体が伸び悩んでいる。
▲	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・7月に続き注文が減少していて、3か月前と比べて3割強程度の減少である。派遣スタッフの退職者が出て、今いる人員で対処する企業が多く、ハローワークの求人も減っている。自社で見付けることができない場合に派遣会社へ依頼するという従来の傾向がなくなり、企業は自社の求人を出し控えている。
▲	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	雇用形態の様子	・この数か月は若手の求人を出しても応募がないという声をよく聞いている。結果として、定年延長や再雇用制度を活用し、60代や70代の再雇用で穴を埋める企業が目立って増えている。以前は新卒や中途の正社員募集が中心だったが、最近はシニア対象の求人や短時間、嘱託といった募集条件の見直しが多い。人手不足の解消というより、当面をしのぐための高齢者活用という色合いが強く、雇用面から見たここ数か月の景気は決して明るいとはいえない。
▲	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	それ以外	・令和8年熊本地震によるインフラの被害で、人流や物流に大きな影響が出ている。震源地に近い地域や比較的被害が小さかった地域でも自粛などの動きがあり経済は停滞している。
▲	学校〔専門学校〕 （就職担当）	周辺企業の様子	・求人の依頼で来校する企業が減少している。新卒人員の確保のため、求人の依頼数は内定式前の7～8月にかけて減少している。例年は1日に5～6社であったが、現在は2～3社になっている。
×	—	—	—